わが道

播磨びと、

「棚田LOVER's」理事長

永菅裕一（ながすがゆういち）さん（27）

市川町谷

芸術的な景観守りたい

「このままでは棚田が無くなってしまう」。2006年、大学の卒業研究で訪れた香美町で、農家男性の悲痛な声を聞いた。後継者不足が深刻だという。芸術作品のような景観を目の前に、研究テーマの「環境教育」に解決の糸口を求めた。

机上だけでなく「現場での学び」を重視する環境教育。07年に大学の仲間ら10人でサークル「棚田LOVER's」を立ち上げ、手始めに稲刈りの体験会を開くことにした。

同時に自ら農家になることを決めた。「仕事として成り立たない」「農作業は大変だ」といった固定概念を壊し、担い手を増やすために「自分が成功事例になろう」と考えた。

香美や神河町で米作りを学びながら、棚田保全のPRと農作業を両立する構想を練った。09年から市川町の棚田を借り、田植えや稲刈りの体験会を開いた。「みんなで作業すれば楽しいし、負担も減らせる」との思いからだ。

昼夜の寒暖差が大きい山間部で育てた米は甘みが強く、参加者の誰もが喜んでくれた。地滑り防止、保水調整といった防災機能が見直され、棚田を守る理由を伝えやすくなった。

「棚田ー」は2年前にNPO法人に。会員は147人まで増えた一方、参加が1回で終わる人も多い。苗を育てる「苗代（なわしろ）」作りから年末の餅つきまで、シーズン通して関わってもらう体験会を今年から仕掛ける。

さらに付加価値を高めるため、学生と連携した酒米の栽培を計画し、棚田の栄養源となる森林の保全活動も思案する。「背中を追ってくる仲間を増やしたい」。農業一本で生活できる〝成功〟までの道のりは長そうだが、語り始めると止まらないほど愛する棚田のため、ただ突き進む。

（有島弘記）